

平成29年 8月の大阪森林便り



今月の木の話

木取りも、木のくせに応じて行われる

- ・広葉樹は針葉樹に比べて狂いやすいことと直材が得にくいことから、建築に使用される木材は、造作材の一部を除いてほとんどが針葉樹になります。
- ・建築に使用される木材は木の樹幹部ですが、国産材で針葉樹のスギやヒノキが多く使われるのは、直幹性の大高木が多く直材が得られるためです。
- ・木材は繊維方向とそれに直角な方向とでは非常に強度が違うので、柱などの荷重に対しては木目の通った直材が要求されます。
- ・山で伐採された原木は一定の期間（100日前後）、山で乾燥させてから玉切り（太さ、節の出具合、曲がり等を勘案して丸太の長さを6m、4m、3m、2mに切る）をして出材されます。
- ・杉では大体40～50年生で用材として伐採されます。1本の木から長さ4mの丸太が5～6本位取れます。
- ・切られた丸太は、根元の方から元木（一番玉）、二番玉、三番玉と呼ばれます。
- ・元木はたいてい枝、つまり節が少ないので良材が得られます。
- ・二番玉で節のないものは、元木よりも直径の差が少ないのでさらに良材が得られますが、数は少ないのが通常です。
- ・針葉樹の原木を製材するにあたって、木材は必ずある決まった方に反る性質があります。
- ・丸太には腹と背があります。腹または背を上にした向きを本木といい、それと直角方向を横木といいます。丸太の腹とは、山で立木の時に山の斜面に面した方で、反対に谷に面した方を背といいます。
- ・木の枝は山側より外側に多く成長しますので、そのバランスを取るために腹側に引張と背側に圧縮の応力が働きます。木の横側は枝の張り方があまり変わらないので、応力は釣り合っています。そのため、木の芯は真円に近い直材の丸太でも少し腹の方に片寄ります。
- ・同じ丸太を挽き割るにしても、本木に割る方が横木に割るよりも反りが少なくなります。

（日本林業調査会「木材に強くなる本」より抜粋）



合板、対日出荷 3 割削減 マレーシア最大手、環境規制で 建設コスト上昇要因に

- ・マレーシア最大の合板企業、シンヤングループは型枠に使う南洋材合板の対日出荷量を、9月から現在に比べて3割減らすと日本の商社に伝えました。産地の伐採増税による原木不足などを理由にしています。対日価格は6月以降上昇基調を強めています。
- ・9月積み以降の対日出荷量は3万 m³ とする方針。5月積みの出荷実績に比べ33%少なくなります。
- ・州政府は①違法伐採取り締まり強化②基準に満たない小径木の伐採禁止③年間伐採面積の厳守—といった保護策や規制を打ち出しました。
- ・7月積みも約6%の値上げで決まりました。
- ・2016年のマレーシア産合板の輸入量は、合板輸入量の4割近くを占めます。
- ・現地の合板各社は8月積み価格の引き上げを提示。3か月間の上げ幅は約12%。

(2017年7月7日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



紀伊の森林 一元管理 3 県知事、共同で条例検討

- ・奈良、和歌山、三重の3県知事は、森林を総合的に管理する「森林環境管理条例（仮称）」の制定を共同で検討することで合意しました。
- ・森林行政は農林水産省、国土交通省、環境省などに分かれます。3県で一元管理を目指し、林業振興や防災に役立てます。
- ・「生産」「生物多様性」「レクリエーション」といった機能を一括管理する条例を目指します。

(2017年7月7日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



日欧 E P A 期待と不安

木材「輸入増対策 準備する」 ワイン「低価格 楽しみやすく」

- ・日本と欧州連合（EU）が経済連携協定（EPA）で大枠合意。
- ・木材や畜産では、関税撤廃・削減による輸入増を警戒する声。

(2017年7月7日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



マレーシア木材値上がり 対日の合板は3か月連続で上昇

- ・合板や丸太など、マレーシア産木材が値上がりしています。
 - ・型枠用合板の対日輸出価格は3か月連続で上昇。
 - ・主産地のサラワク州政府が環境保護を理由に伐採税を引き上げたため、増税分を転嫁。
 - ・丸太の伐採量も減っていて、原木丸太の対日価格も上昇しました。
 - ・型枠用合板の8月積み対日価格は、7月成約価格に比べ約4%高い価格で決まりました。上昇は3か月連続。上げ幅は3か月で約12%に達しました。
 - ・サラワク州産丸太の7月積み価格も6月成約価格に比べ3.2%高値で決まりました。
 - ・インドやベトナムが調達を増やしていることも対日価格を押し上げています。
- (2017年7月15日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



インドネシア産合板4%値上げ 対日8月積み

- ・インドネシア産合板の8月積み対日輸出価格が、7月に比べ4%の引き上げ。値上げは3か月連続。
- 日本の一部商社は、確実な製品の確保に向け、インドネシア産の買値を9~10月積みにかけてさらに引き上げることを受け入れるなど先高観が強くなっています。
- (2017年7月20日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



国産丸太輸出1.5倍 認知度向上 中国需要回復

- ・貿易統計によると、木材輸出は上半期の加工最高を更新。アジアでの日本材の認知度向上が寄与。国産丸太の輸出量は前年同期比1.5倍、中国向けが1.3倍に増えました。
 - ・中国では、日本産木材は梱包材や住宅の内装材、製材後に第三国に輸出するための原木として利用。
 - ・製材品の輸出量も同1.6倍の約6万m³で過去最高を更新。
- (2017年7月29日 日本経済新聞記事から抜粋引用)

